

かみとがみ
上戸神遺跡 (本発掘調査A)

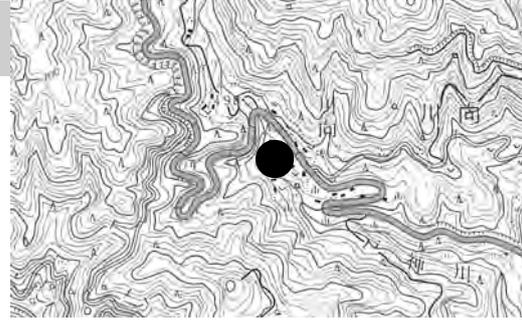
所在地 北設楽郡設楽町川向字上戸神地内
(北緯35度06分49秒 東経137度33分25秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和6年7月

調査面積 132㎡

担当者 堀木真美子・田中 良



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、実施した。調査は遺跡の範囲を確認するために、遺跡の西側を中心にTT01～TT12の12箇所のトレンチを設定した。トレンチは4m×7.25m×1箇所、3m×6m×1箇所、3.4m×5m×1箇所、1.5m×8m×1箇所、3m×3m×4箇所、1m×5m×4箇所で総面積は132㎡である。

立地と環境 遺跡は、東堂神社の正面にある平坦面を中心に戸神川左岸の河岸段丘上および南向き斜面に立地する。

調査の概要 今回の調査では、遺跡の旧地形と現地形が大きく異なることが判明した。TT04・TT05からは、炭化物を多く含む谷埋土と岩盤が地表から1.5m下で検出され、谷埋土中から石器や縄文土器の細片が出土した。

TT01～TT12の全てのトレンチからは、土石流堆積の痕跡が確認された。現況は緩斜面や平場となっているが、これは山側からの土石流によって形成されていることが分かった。元々の地形は谷状となっており、そこを近代以降に開墾し、段々畑などに利用していたことが分かった。

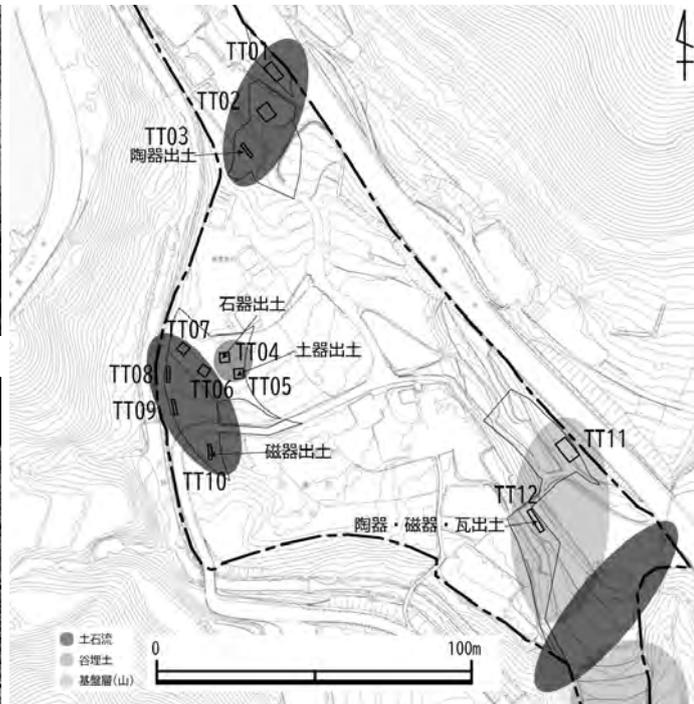
(田中 良)



TT05 東壁土層断面 西から



TT11 完掘状況 東から



上戸神遺跡調査区配置図